



©稲垣純也

小島慶子さん エッセイスト・タレント

こじま・けいこ／1972年オーストラリア生まれ。95年学習院大学卒業後、TBS入社。アナウンサーとしてテレビ、ラジオに出演。2010年に退社後は各メディア出演、講演、執筆など幅広く活動。14年、オーストラリア・パースに教育移住。著書多数。東京大学大学院情報学環客員研究員。昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員、NPO法人キッズアドバイザー。

オバマ氏が見た世界より 未来から、希望を胸に



パートナーのミシェル・オバマ氏とともに
©Pete Souza/The White House

巧みに描かれた 読ませる回顧録

——本書のご感想をお聞かせください。

読ませる、引き込まれる回顧録でした。オバマ政権前半の記録に、自身の過去や家族との関係などパーソナルな物語が巧みに織り込まれていて、読者を飽きさせない構成です。オバマ氏の率直な人物描写も読みどころですね。オバマ政権で副大統領を務めた新大統領のバイデン氏は、本書では概ね好意的に書かれています。民主党大統領候補のライバルとして遠慮のない描写もあり、面白いです。

——本書にはパートナーのミシェル・オバマさんもたびたび登場します。ミシエルさんの印象は？

オバマ氏がミシエルさんを心から尊敬し信頼していることがよく分かります。ミシエルさんとの関係から、大統領の職務の記述だけでは見えてこない、オバマ氏自身の葛藤や人間としての不完全さを読み取ることができるのも興味深いです。これもオバマ氏の文章力なのか、ミシエルさんの夫としてのオバマ氏はより親しみやすく、人間的な印象です。

ミシエルさんは、大統領夫人になってもおごることなく、その立場だからできることがあると、国を挙げた子どもの肥満防止キャンペーン「レッツ・ムーブ！」にも尽力しました。そんなミシエルさんがいたから、オバマ氏は若い頃に抱いた志を見失わずにいられたのではないのでしょうか。この回顧録は、ミシエルさんの自伝『マイ・ストーリー』（集英社刊）と併せて読むととても面白いです。例えば、大統領選で勝った瞬間のことはどちらの本にも書かれていて、両者の視点で立体視できる楽しさがあります。ミシエルさんの文章も温かみがあって、読んでいるうちに彼女と親しくなったような気持ちになりました。

ダイバーシティの 壁に突き当たって

——オバマ氏の考えや政策はSDGs※につながるものが多いところがあると思います。小島さんが関心を持たれた取り組みは？

オバマ氏は早くから気候変動問題に取り組み、地球温暖化対策の国際的枠組「パリ協定」を主導しま



当時副大統領だったジョー・バイデン氏と(2010年)
©Pete Souza/The White House

した。トランプ政権で一度離脱しましたが、バイデン政権で早々に復帰しています。この先どう進めるのか、注目しています。

経済格差や貧困問題にも関心が高いですね。本の中では、母親は白人、父親は黒人という複雑な出自に悩み、裕福な家庭で育ったわけでもないことを綴っています。自身の経験から感じた社会課題に、市民活動家の頃から地道に取り組んでいることがわかります。

印象に残ったシーンは、ホワイトハウスのスタッフの採用では、人種、ジェンダーの多様性を重視したと自負していたオバマ氏に、ある日、女性スタッフたちが男性スタッフの性差別的な態度を訴えるエピソードです。つまり、当時のホワイトハウスはダイバーシティ&インクルージョン(多様性と包摂)の形は整っていたけれど、男性優位の習慣が抜けきれていなかったために、女性スタッフにとって安心できる職場ではなかったことを正直に書いています。そのことにオバマ氏自身も気づいていなかった。男性ゆえの死角です。ダイバーシティ&インクルージョンの課題を示し、読者のアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)への気づきを促しています。

理想への追求なしに 世界は変わらない

——オバマ氏の生き方で印象に残ったことは？

冷笑主義は何も解決しないということです。以前、元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏にインタビューした際に「戦争のない世界は実現できるのでしょうか」と尋ねたら、「戦争のない世界を実現することは難しい。しかし、本気で戦争をなくそうと思う人にしか、世界は変えられません」とおっしゃったことを思い出しました。核なき世界、格差のない社会……現実には厳しくても、理想を実現するのが自らの責務だというオバマ氏の姿勢には胸を打たれました。

——読者の方へのメッセージを。

オバマ氏は政治の世界でさまざまな人物と対峙しますが、全編を通して人間の善なる面に信頼を置こうとするフェアな視点が貫かれていて、読後感を温かなものにしてくれます。

私たちは、先月のトランプ前大統領支持者によるアメリカ議会襲撃事件、新大統領就任式を見ているので、この回顧録に書かれた歴史の未来の展開を知っています。新政権が発足し、オバマ氏の執筆時と状況が大きく変わった今、まさに旬のタイミングで読んで欲しいです。



インタビュー内で取り上げられた、オバマ氏の取り組みと関連がある主なSDGsゴール

※持続可能な開発目標。国際社会が2030年までの達成を目指す17の目標と169のターゲット

次世代を担う、すべての人に——

高い理想と希望をかかげて、
難題に向き合った夫婦それぞれのストーリー。

ためし読み・最新情報は
特設サイトへ

バラク・オバマ 集英社 検索
<http://gakugei.shueisha.co.jp/obama/>



希望を持ち続けられ、
分断は乗り越えられる。
希望と変革の象徴として
初の黒人大統領となったバラク・オバマ。
強い信念で疾走しつづけた
若きリーダーの闘いの記録。

上巻の内容(抜粋)

- 大学卒業後に地域の課題解決に取り組む(1章)
- 大統領選に出馬。アメリカの人種問題に直面。19歳上のバイデンを副大統領候補に。(4-8章)
- 大統領選勝利。就任式。政権移行。(上巻10章)
- 経済再生策に奔走、民主党と共和党の分断に頭を悩ます。(下巻13章)

下巻の内容(抜粋)

- 外交デビュー。メルケル、サルジ等への人物評。(14章)
- 医療保険制度改革法案通過のための交渉と妥協。(16章)
- ノーベル平和賞受賞。決意を新たに。(18章)
- 訪日。鳩山首相、天皇皇后両陛下との会談。(20章)
- トランプによる根拠のない主張「イクスキューズ」を警戒。(26章)
- ビン・ラディン殺害。(27章)

※約束の地 大統領回顧録 I は2020年3月31日まで発売予定

「私はまだ旅の途中にいて、
自分があるべき姿を模索している」
ミシエル・オバマからのメッセージ動画公開中



「“守るべき価値観や理想がある”
と語る人たちを、勇気づけたい」
バラク・オバマ元大統領からのメッセージ動画公開中



バラク・オバマ 約束の地 大統領回顧録 I 上・下

訳・山田文 三宅康雄 ほか 四六判／(上)544ページ・(下)560ページ
●本体(各)2,000円＋税 (上)ISBN978-4-08-786133-4 (下)ISBN978-4-08-786134-1

ミシエル・オバマ マイ・ストーリー

訳・長尾莉紗 柴田さとみ 四六判／600ページ
●本体2,300円＋税 ISBN978-4-08-786117-4

集英社

ロングセラー
6刷

完璧など目指さなくていい。
多様性を訴え、
女子教育の向上、
食生活改善をすすめ、
社会をエンパワーメントしつづけた
ひとりの女性の物語。

第1部 BECOMING ME

第2部 BECOMING US

第3部 BECOMING MORE

初めの黒人ファーストレディに。ホワイトハウスでの生活が始まる。